歴史地震
第 30 号（2015）177-178 頁

［報告］ 第 31 回歴史地震研究会参加記

北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測センター* 伊尾木 圭衣

Impression Report of 31th General Meeting

Kei IOKI

Institute of Seismology and Volcanology, Hokkaido University

N10W8, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan

§1. はじめに

2014 年 9 月 20 日(土)から 22 日(月) の 3 日間にわたり第 31 回歴史地震研究会が 名古屋大学東山キャンパスにおいて開催された．研究発表会は減災館減災ホール，ポスターセッションは減災館減災ギャラリー，公開講演会は IB 電子情報館 2 階大講義室にておこなわれた．見学会(巡検)は愛知県幸田町，半田市の数箇所をめぐった．減災館は創立から1年経っておらずとてもきれいな建物で，東海地域で発生した災害(伊勢湾台風，昭和東南海地震，三河地震など)のパネルや防災グッズなどが展示されており興味深かった．本稿では筆者が初参加となった第 31 回歴史地震研究会―名古屋大会の 3 日間の模様を報告する．

§2. 研究会 1 日目―研究発表会

セッションは地域ごとにわかれており，1 日目は中部，東北，日本海，関西，関東の地震と津波について 25 件の口頭発表がおこなわれた．また昼休憩後には 1 時間にわたり 11 件のポスター発表もおこなわれ，活発な議論や意見交換場となった（写真 1）．

口頭発表からは，理系，文系など多方面から地震と津波の研究アプローチ方法を学び，とても興味深く，よりいっそう理解が深まった．筆者が参加する学会は理系の観点からの研究発表が多く，歴史地震研究会に参加したことで地震と津波の研究に関する視野が広がった．講演要旨集は，研究発表会中とても活用しやすく，また後日理解を深めるものとしても役立った．

§3. 研究会 2 日目―研究発表会，公開講演会

2 日目午前は南海トラフの地震，西日本，台湾などの地震と津波について 18 件の口頭発表がおこなわれた．今回開催場所が名古屋大学ということもあり，南海トラフ関連の講演が多く，知識が深まった．

午後は公開講演会『東海地域の地震と防災について考える―風化させない震災の記憶』がおこなわれた．一般参加者の為にわかりやすく講演がなされた．東海地域に住む市民のみなさまに地震と防災についてより深く考えるきっかけとなることを目指し公開講演がおこなわれた．この地域に住む市民の方々にとって，この地域で過去にどのような地震や津波が発生したかを詳しく理解することで，地震や津波をより身近なものに感じ，防災の意識がよりいっそう高まったのではないか．

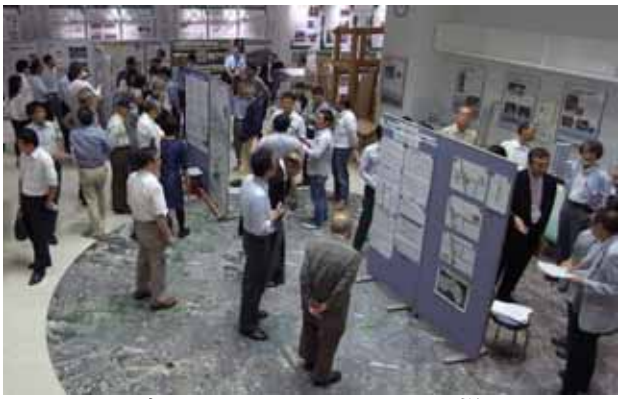

写真 1. ポスターセッションの様子

写真 2. 研究会 1 日目の最後には，羽鳥徳太郎先生への功績賞表彰式が行われた．

* 〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
電子メール： iokikei@mail.sci.hokudai.ac.jp

§4. 研究会 3 日目ー見学会(巡検)

3 日目は見学会「愛知県幸田町･半田市　地域に残る昭和東南海地震･三河地震の記憶」がおこなわれた．貸し切りバスで一日かけて愛知県の幸田町，半田市の数箇所ー1944 年昭和東南海地震, 1945 年三河地震に関連する場所を巡った．

まず初めに幸田町本光寺へ行き，三河地震被害痕跡を確認した．地震によりお寺の柱が傾いていたり，瓦や塀が崩壊していた（写真 3）．崩壊地はそのままの形で残されていた．

次に三河地震における深溝断層を見学した．深溝断層は最大落差が約 1.5 m，最大左ずれ水平変位が約 1 m あり，愛知県指定天然記念物として管理されているのではっきり確認することができた．

その後昼食休憩をとり，半田市雁宿公園へ行き昭和東南海地震慰霊碑を見学した．また，昭和東南海地震関係史跡として半田市光照院，小栗家住宅の見学をおこなった．

お寺や断層，慰霊碑などをめぐる巡検に初めて参加し，とても興味深く，新たな発見も多々あり，そして雰囲気も良く，充実した巡検となった．

写真 3.　三河地震により崩壊した塀

§5. おわりに

筆者にとって初参加となる歴史地震研究会の研究発表会，公開講演会，巡検を通して，貴重な経験をさせていただいたこと，御礼申し上げます．

最後になりますが，第 31 回歴史地震研究会の準備と運営に携われた皆様に，ここに記して感謝申し上げます．

写真 4.　巡検集合写真（國盛 酒の文化館にて）

第31回歴史地震研究会(名古屋大会)懇親会場にて